

# 南城市地域公共交通再編実施計画の改定概要

令和6年3月

南 城 市

# 1 見直し内容

## 1.1 見直し概要

- 2024年4月1日からの見直し幹線バス（路線バス）は、系統39番、系統339番、系統40番、系統309番の4系統でいずれも沖縄バスの路線になります。
- 幹線バスについては、今年度も9月、12月、1月に3回の見直しを行いました。引き続き、運転手確保が厳しい状況が続いています。
- また、沖縄バスにおいては、2024年4月1日より、東陽バスがグループ会社となるため、両社で連携・協力し、さらなる効率化、利便性向上に向け、取り組んでいくことになりました。

表 1.2024年4月の見直し内容

区分	系統	見直し内容	
支線バス（Nバス）	—	見直しなし	
幹線バス （路線バス）	39	平日の減便 平日：32便→24便（▲8便） 土曜日：8便→8便（±0便） 日祝日：8便→8便（±0便）	
		平日の減便、平日の1便を壺川・パルコ経由に変更 平日：12便→10便（▲2便） 土曜日：10便→10便（±0便） 日祝日：10便→10便（±0便）	
	40	平日の減便 平日：16便→13便（▲3便） 土曜日：10便→10便（±0便） 日祝日：10便→10便（±0便）	
		309	平日の減便 平日：20便→19便（▲1便） 土曜日：8便→8便（±0便） 日祝日：8便→8便（±0便）
		—	見直しなし
	—	見直しなし	

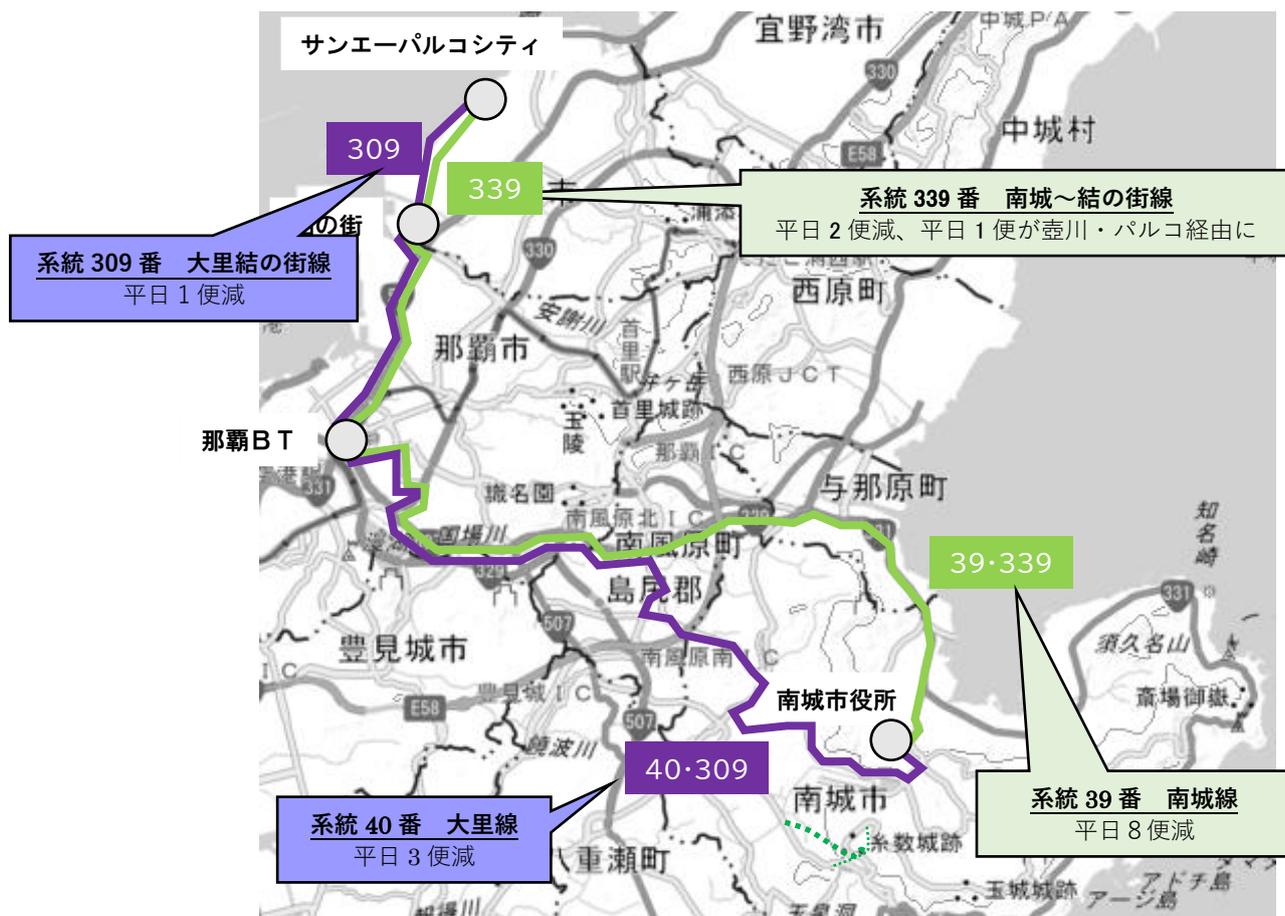


図 1.2024 年 4 月見直し対象路線のルート

## 1.2 幹線バスの見直し

### (1) 国道 331 号（佐敷・知念方面）

- 国道 331 号（佐敷・知念方面）では、系統 39 番で平日 8 便の減便、系統 339 番で平日 2 便の減便を行います。
- 系統 339 番は、平日上り 1 便が壺川・パルコ経由となります。
- なお、土曜日、日祝日は若干の時刻の見直しはありますが、便数の見直しはありません。

表 2.国道 331 号(佐敷・知念方面)の再編概要(1/2)

系統番号	系統名	平日便数	事業者	2019 年度再編	2020 以降の再編	備考
37 番	那覇新開線	32 便	東陽バス	新里～馬天営業所行、新里～市役所行に分岐し、ほとんどの便が南城市役所発着。	南城市役所発着	沖縄バスの 39 番、339 番、41 番系統と等間隔運行を実施。2023 年 2 月、9 月に減便。
38 番	志喜屋線	32 便	東陽バス	朝夕のみ運行し、斎場御嶽発着の 338 番系統を新設。	同左	2023 年 2 月、9 月に減便。
338 番	斎場御嶽線	—	東陽バス	斎場御嶽発着で、斎場御嶽線を新設。	同左	2023 年 2 月、9 月に減便。
39 番	百名線 ※再編後は南城線	46 便	沖縄バス	南城市役所発着に変更。	市内は同左 2022 年度に一部便が豊見城営業所まで運行区間を延長	東陽バスの 37 番系統と等間隔運行を実施。2020 年度より増便。2023 年 12 月、 <b>2024 年 4 月に減便。</b>
339 番	南城～結の街線	—	沖縄バス	南城市役所発着で、結の街線を新設。	市内は同左 2022 年度に壺川経由を運行。	東陽バスの 37 番系統と等間隔運行を実施。2020 年度より増便。2023 年 12 月、 <b>2024 年 4 月に減便。</b>

表 3.国道 331 号(佐敷・知念方面)の再編概要(2/2)

系統番号	系統名	平日便数	事業者	2019 年度再編	2020 以降の再編	備考
41 番	つきしろの街線 ※再編後はつきしろの街(百名経由)線	10 便	沖縄バス	南城市役所発着～西つきしろ間～百名～市役所に運行区間を延長。	2022 年度に廃止、39 番に統合	東陽バスの 37 番系統と等間隔運行を実施。
191 番	城間線	32 便	東陽バス	変更なし。	新里～馬天営業所間から新里～南城市役所に経路を変更。	事業者にて、南城市役所までの乗り入れ可能性を検討。 2022.11 の 391 番の新設に伴い減便。 2023 年 12 月に減便。 ※91 番は 2018(平成 30)年 12 月 22 日に廃止し、191 番へ統合
391 番	城間線	—	東陽バス	—	2022.11 新設	2023 年 12 月に減便。

※表の「平日便数」は 2019 再編前



図2.国道331号(佐敷・知念方面)の幹線バスの再編内容

(2) 県道 48 号線・県道 86 号線 (大里・玉城方面)

- 県道 48 号線・86 号線 (大里・玉城方面) では、系統 40 番で平日 3 便の減便、系統 309 番で平日 1 便の減便を行います。
- なお、土曜日、日祝日は若干の時刻の見直しはありますが、便数の見直しはありません。

表 4. 県道 48 号線・86 号線 (大里・玉城方面) の再編概要

系統番号	系統名	平日便数	事業者	2019 年度再編	2020 以降の再編	備考
40 番	大里線	42 便	沖縄バス	一部便を南城市役所まで延伸。大里第二団地経由は廃止。	2020 年 4 月より大城駐機場止まりは廃止。 2022 年 5 月より減便	結の街 (浦添市国立劇場前) 発着を設け、309 番系統として新設。2023 年 12 月減便、2024 年 4 月減便
309 番	大里～結の街線	—	沖縄バス	結の街～大城・市役所を結ぶ路線を新設。	2020 年 4 月より大城駐機場止まりは廃止。 2022 年 5 月より一部便がパルコまで延伸。	新設。2023 年 12 月増便、2024 年 4 月減便
109 番	大里線	6 便	沖縄バス	廃止。	廃止。	40 番と統合。
51 番	百名線	17 便	琉球バス	変更なし。	百名バスターミナルから南城市役所まで延伸。	地域公共交通確保維持事業の補助路線であることから、関係市町村との調整が必要。 2024 年 1 月増減便
53 番	志喜屋線	17 便	琉球バス	51 番と統合、富里～奥武間、百名 BT～志喜屋間の廃止。		//
54 番	前川線	4 便	琉球バス	変更なし。	変更なし。	2024 年 1 月ダイヤ見直し

※表の「平日便数」は 2019 再編前



図 3. 県道 48 号線・86 号線(大里・玉城方面)の幹線バスの再編内容

## 2 収支の見直し

### 2.1 再編事業の事業費

#### (1) 支線バス

●支線バスの事業費は、今回見直しで変更がないため、前回見直しの2024年4月(Nバス再編)と同額です。

表 5-1.2024 年 4 月(沖縄バス)見直し時の支線バスの事業費

系統番号	運行主体	運行区間	事業費 (千円)
A-1/A-2 知念・佐敷一周線	沖縄バス	市役所～馬天～佐敷～安座真～志喜屋～百名～親慶原～市役所	33,000 /33,000
A-3 知念・佐敷一周線(つきしろ経由)	沖縄バス	東つきしろ～馬天小前～佐敷小前～知念小前～市役所	0 /0
B-1/B-2 ニライカナイ橋・つきしろ線	沖縄バス	市役所～親慶原～安座真～佐敷～馬天～市役所	26,700 /26,700
C-1/C-2 玉城・大里一周線	沖縄バス	市役所～親慶原～百名～奥武～船越～稲嶺～仲程～大城～市役所	28,300 /28,300
D-1 玉城東回り線	沖縄バス	玉城東地域を回る通勤・通学ルート	1,800 /1,800
D-2 玉城東回り線(向陽高校経由)	沖縄バス	玉城地域及び向陽高校下校時のルート	3,900 /3,900
E 知念南回り線	沖縄バス	市役所～つきしろの街～志喜屋～百名～市役所	0 /0
F 玉城西回り線	沖縄バス	市役所～糸数～前川～湧稲国～船越～市役所	1,300 /1,300
G 向陽高校線(大里経由)	沖縄バス	市役所～嶺井～仲程～湧稲国～船越～向陽高校入口	800 /800
H 知念高校線(大里経由)	沖縄バス	市役所～知念高校～仲程～湧稲国～糸数～市役所	0 /0
小計			95,800 /95,800

※上段が2024年4月(Nバス再編)、下段が2024年4月(沖縄バス再編)

支線バスの事業費は、路線別の年間の走行キロに燃料費を乗じ、人件費及び車両費は各系統で共有しているため、全体の費用を年間の走行キロで按分して路線毎に割り当てて算出しています。

(2) 幹線バス・デマンド交通

- 幹線バスの事業費は、減便により 2024 年 4 月（N バス再編）の 82,900 千円/年から、2024 年 4 月（沖縄バス再編）は 79,000 千円/年と 3,900 千円/年減少します。
- 全体の事業費は、2024 年 4 月（N バス再編）の 211,600 千円/年から、2024 年 4 月（沖縄バス再編）は 207,700 千円/年へと 3,900 千円/年減少します。

表 5-2.2024 年 4 月（沖縄バス再編）見直し時の幹線バス・デマンド交通・全体の事業費

区分	系統番号	運行主体	運行区間	車両	運転手	事業費（千円）
幹線バス	37 番系統	東陽バス	那覇 BT～馬天入口～新里～馬天営業所・南城市役所	13	23	8,100 /8,100
	38 番系統	東陽バス	那覇 BT～馬天入口～志喜屋			3,500 /3,500
	338 番系統	東陽バス	那覇 BT～馬天入口～斎場御嶽入口			4,800 /4,800
	39 番系統	沖縄バス	那覇 BT～馬天入口～南城市役所	5	9	6,800 /5,300
	339 番系統	沖縄バス	結の街～那覇 BT～南城市役所			3,900 /3,600
	40 番系統	沖縄バス	那覇 BT～大城・南城市役所	4	8	12,000 /10,400
	309 番系統	沖縄バス	結の街～那覇 BT～大城・南城市役所			13,100 /12,600
	51 番系統	琉球バス	那覇 BT～稲嶺十字路～玉城中学校前～百名 BT	13	20	14,500 /14,500
	50 番系統	琉球バス	那覇 BT～向陽高校～中山～百名 BT・南城市役所			11,200 /11,200
	36 番系統	沖縄バス	糸満 BT～仲程～馬天入口～南城市役所	他系統と運用		5,000 /5,000
		小計			35	60
デマンド交通	おでかけなんじい	鏡原第一交通	久高島を除く南城市内全域	3	6	32,900 /32,900
	計			44	77	211,600 /207,700

※上段が 2024 年 4 月（N バス再編）、下段が 2024 年 4 月（沖縄バス再編）

幹線バスの事業費は、路線別の年間の走行キロに走行キロあたり運行経費を乗じて算出しています。

## 2.2 再編事業の収入見込み

- 2024年4月（沖縄バス再編）の見直しでは、利用者が多い朝夕の便数はおおむね維持しつつ、利用者が少ない時間帯での減便を行うことから、利用者数の減少は限定的であり、幹線バスの収入は見直し前と同じ158,200千円/年を見込んでいます。

表 6.再編事業の収入見込み

区分	収入見込み（千円/年）		増減	備考
	2024.4 (Nバス再編)	2024.4 (沖縄バス再編)		
支線バス	42,300	42,300	±0	
幹線バス	158,200	158,200	±0	
デマンド交通	4,600	4,600	±0	
計	205,100	205,100	±0	

## 2.3 収支の見込み

### (1) 支線バス

- 支線バスの収支は、特に変更はなく、赤字額は見直し前と同額の53,500千円/年を見込んでいます。

表 7.支線バスの収支見込み

系統名	収入(千円)			支出(千円)			収支(千円)		
	2024.4 (Nバス再編)	2024.4 (沖縄バス再編)	増減	2024.4 (Nバス再編)	2024.4 (沖縄バス再編)	増減	2024.4 (Nバス再編)	2024.4 (沖縄バス再編)	増減
A1: 佐敷・知念・百名線									
A2: 百名・知念・佐敷線	19,300	19,300	0	32,900	32,900	0	▲ 13,600	▲ 13,600	0
B1: 佐敷・ニライカナイ橋・つきしろ線									
B2: つきしろ・ニライカナイ橋・佐敷線	7,200	7,200	0	26,300	26,300	0	▲ 19,100	▲ 19,100	0
B3: つきしろ線	200	200	0	600	600	0	▲ 400	▲ 400	0
C1: 玉城・大里線									
C2: 大里・玉城線	12,100	12,100	0	28,200	28,200	0	▲ 16,100	▲ 16,100	0
D1: 玉城東回り線	900	900	0	1,800	1,800	0	▲ 900	▲ 900	0
D2: 玉城東回り線(向陽高校経由)	2,100	2,100	0	3,900	3,900	0	▲ 1,800	▲ 1,800	0
F: 玉城西回り線	400	400	0	1,300	1,300	0	▲ 900	▲ 900	0
G: 向陽高校線(大里経由)	100	100	0	800	800	0	▲ 700	▲ 700	0
計	42,300	42,300	0	95,800	95,800	0	▲ 53,500	▲ 53,500	0

(2) 幹線バス

●幹線バスの収支は、減便により支出が削減されることで、黒字額は、2024年4月(Nバス再編)の75,300千円/年から、2024年4月(沖縄バス再編)は79,200千円/年へと3,900千円/年改善される見込みです。

表 8.幹線バスの収支見込み

系統名	収入(千円)			支出(千円)			収支(千円)		
	2024.4 (Nバス再編)	2024.4 (沖縄バス再編)	増減	2024.4 (Nバス再編)	2024.4 (沖縄バス再編)	増減	2024.4 (Nバス再編)	2024.4 (沖縄バス再編)	増減
37番系統	13,800	13,800	0	8,100	8,100	0	5,700	5,700	0
38番系統	22,500	22,500	0	3,500	3,500	0	19,000	19,000	0
338番系統	26,800	26,800	0	4,800	4,800	0	22,000	22,000	0
39番系統	30,000	30,000	0	6,800	5,300	▲ 1,500	23,200	24,700	1,500
339番系統	5,000	5,000	0	3,900	3,600	▲ 300	1,100	1,400	300
40番系統	13,500	13,500	0	12,000	10,400	▲ 1,600	1,500	3,100	1,600
309番系統	9,000	9,000	0	13,100	12,600	▲ 500	▲ 4,100	▲ 3,600	500
51番系統	13,000	13,000	0	14,500	14,500	0	▲ 1,500	▲ 1,500	0
50番系統	23,900	23,900	0	11,200	11,200	0	12,700	12,700	0
36番系統	700	700	0	5,000	5,000	0	▲ 4,300	▲ 4,300	0
琉球バス交通	36,900	36,900	0	25,700	25,700	0	11,200	11,200	0
沖縄バス	58,200	58,200	0	40,800	36,900	▲ 3,900	17,400	21,300	3,900
東陽バス	63,100	63,100	0	16,400	16,400	0	46,700	46,700	0
計	158,200	158,200	0	82,900	79,000	▲ 3,900	75,300	79,200	3,900

(3) デマンド交通

●デマンド交通の収支は、運行計画に変更がないことから、2024年4月(Nバス再編)と同額の28,300千円/年の赤字となります。

表 9.デマンド交通の収支見込み

区分	収入(千円)	支出(千円)	収支(千円)	収支率
2024.4(Nバス再編)	4,600	32,900	▲ 28,300	14%
2024.4(沖縄バス再編)	4,600	32,900	▲ 28,300	14%

(4) 収支のまとめ

●2024年4月(沖縄バス再編)の収支は6,500千円/年の赤字から、2,600千円/年の赤字へと3,900千円/年改善される見込みです。

表 10.2024年4月(沖縄バス再編)の収支見込みのまとめ

	収入			支出			収支		
	2024.4 (Nバス再編)	2024.4 (沖縄バス再編)	増減	2024.4 (Nバス再編)	2024.4 (沖縄バス再編)	増減	2024.4 (Nバス再編)	2024.4 (沖縄バス再編)	増減
支線バス	42,300	42,300	0	95,800	95,800	0	▲ 53,500	▲ 53,500	0
幹線バス	158,200	158,200	0	82,900	79,000	▲ 3,900	75,300	79,200	3,900
デマンド交通	4,600	4,600	0	32,900	32,900	0	▲ 28,300	▲ 28,300	0
計	205,100	205,100	0	211,600	207,700	▲ 3,900	▲ 6,500	▲ 2,600	3,900

2.4 2024年4月(沖縄バス再編)の評価のまとめ

●2024年4月(沖縄バス)の再編により、幹線バスが減便されることで、総走行台キロは、2024年4月(Nバス再編)の103万1千km/年から、101万4千km/年へと1万7千km/年減少します。

表 11.2024年4月(沖縄バス再編)での総走行台キロの変化

	台キロ		
	2024年4月 (Nバス再編)	2024年4月 (沖縄バス再編)	増減
支線バス	659,000	659,000	0
幹線バス	372,000	355,000	▲ 17,000
計	1,031,000	1,014,000	▲ 17,000